舞台芸術領域開設記念事業 vol.2

しあわせは、ひとつですべて

家族のための音楽劇／ストラヴィンスキー 兵士の物語

作曲：イーゴリー・ストラヴィンスキー　原作：シャルル・フェルディナン・ラミューズ
演出：鳴海康平　振付：浅井信好　舞台美術：石黒諭　照明：島田雄峰　音響：岡野憲右　舞台監督：礒田有香

ロシアの民話「兵士の物語」に、ロシアの作曲家ストラヴィンスキーが音楽をつけて、
音楽劇に仕上げました。50年以上も昔のことです。
この物語の舞台は、小川の流れる小さな村。
お休みをもらった兵士は、村に残してきた恋人に会うために故郷への帰り道を急ぎます。
兵士は旅に疲れると、ときどき得意のヴァイオリンを演奏しますが、
そこに兵士のヴァイオリンを聴いた悪魔があらわれて……。

日時：3月12日（土） 15：00開演（14：30開場）
料金：一般 500円、小学生以下 無料（事前予約制・全自由席）
会場：名古屋芸術大学 3号館ホール

チケット申し込み

ヴァイオリン
日比浩一
京都市立芸術大学音楽学部卒業、同時に音楽学部賞を受賞。その後、神戸室内合奏団（現・神戸市室内合奏団）ソロヴァイオリン奏者、関西フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターを経て、現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。名古屋芸術大学教授、大阪音楽大学特任教授、大阪樟蔭女子大学客員教授。（社）日本演奏連盟、宝塚演奏家連盟会員。

コントラバス
榊原利修
セントラル愛知交響楽団コントラバス奏者・楽団長。中博昭、イジー・ヴァレンタ、ライナー・ツェッパリツの各氏に師事。名古屋芸術大学非常勤講師、愛知県立明和高校音楽科非常勤講師。愛西市音楽祭実行委員。

©Masaaki Umeda

クラリネット
竹内雅一
名古屋芸術大学大学院音楽研究科・芸術学部教授、クラリネット協会・名古屋理事長、高山市民吹奏楽団音楽監督、岡崎音楽家協会会員、名古屋フランス音楽研究会会員、日本室内楽アカデミー会員、株式会社ビュッフェ・クランポン・ジャパン特別嘱託講師。

ファゴット
依田嘉明
武蔵野音楽大学及び大学院修了。第2回宝塚ベガ音楽コンクール室内楽部門第2位。1990年オランダ・スウェーリンク音楽院に入学。1992年帰国。1998～2002年までセントラル愛知交響楽団首席奏者として在籍。2002年より名古屋芸術大学専任講師となる。現在は名古屋芸術大学及び大学院教授。

トランペット
松山英司
三重県出身。名古屋芸術大学にてトランペットを竹本義明氏に、指揮法を古谷誠一氏に師事。現在、マスターズ・ブラス・ナゴヤ、天神山ブラスアンサンブル、The Brassical Quintet、各メンバー。岐阜県立加納高等学校非常勤講師、名古屋芸術大学非常勤講師。

トロンボーン
永井淳一郎
武蔵野音楽大学卒業後、オランダのロッテルダム音楽院へ留学。The Brassical Quintet、ウィンドアンサンブルGAJAメンバー。名古屋市立菊里高校音楽科、名古屋芸術大学非常勤講師。

打楽器
稲垣佑馬
愛知県立明和高等学校音楽科を経て、東京音楽大学音楽学部を卒業。その後渡米しさらに研鑽を積む。マリンバ・打楽器奏者としてソロ、室内楽、オーケストラへの客演等幅広く活動。名古屋芸術大学非常勤講師。

パントマイム
奥野衆英
パリ市立マルセル・マルソー国際マイム学院にてディプロム取得、パリ第8大学修士課程在籍中より欧州で活動。アルビー欧州国際演劇祭で最優秀作品賞と最優秀男優賞を受賞。

声
小菅紘史（第七劇場）
木母千尋（第七劇場）ほか
【第七劇場】主に既成戯曲を上演し、言葉の物語のみに頼らず身体や美術が多層的に作用する空間的なドラマが評価され、国内外のフェスティバルなどに招待される。Théâtre de Belleville レジデントカンパニー。

舞台芸術領域開設記念事業 vol.3

演劇／第七劇場 oboro

作：穴迫信一（ブルーエゴナク）　出演：諏訪七海、増田知就　演出・美術：鳴海康平（第七劇場）

目の前のあのひとは現実か、それとも私の夢か。今この時間は現実か、私の夢か、それとも誰かの夢か――。
コンビニで働く東と七月、そして七月の恋人の三郷が生きる「いくつもの」日常。
いつも、何度も目覚め続けるそれは、誰かの夢のようで、私の夢のようで、いつもいつのまにか重みを失う。
私も、あなたも、この貼り紙に写るあのひとと同じように、存在することも、存在していたことも曖昧になっていく。
北九州を拠点に活動する気鋭の劇作家・穴迫信一の書き下ろし新作短編を、第七劇場・鳴海康平の演出で、2021年6月に初演。

日時：3月13日（日） 15：00開演（14：30開場）　料金：一般2,000円（未就学児入場不可・事前予約制・全自由席）
会場：名古屋芸術大学 3号館ホール

チケット申し込み

©松原豊

穴迫信一
1990年生。2012年に福岡県北九州市でブルーエゴナクを旗揚げ。以降、全作品の作・演出を務める。地域を拠点に国内外に通用する新たな演劇の創造と上演を趣旨として活動。リリック（叙情詩）を組み込んだ戯曲と、発語や構成に渡り音楽的要素を用いた演出手法を元に、〈個人のささやかさ〉に焦点を当てながら世界の在り方を見いだそうとする作風が特徴。これまでに市場や都市モノレールでのレパートリー作品を製作するなど、地域との共同製作も多数。また2012年より連年京都にて滞在制作を行っており、京都と北九州の複数拠点を目指している。2018年度ロームシアター京都×京都芸術センターU35創造支援プログラム"KIPPU"選出。2020-2021年度セゾン文化財団セゾン・フェロー。
ブルーエゴナクwebsite　http://buru-egonaku.com

鳴海康平
第七劇場、代表・演出家。Théâtre de Belleville、芸術監督。早稲田大学在籍中の1999年に劇団を設立。主に既成戯曲を「風景」による劇空間作品として構成。国境を越えることができるプロダクションをポリシーに作品を製作。これまで国内25都市、海外5ヶ国11都市（フランス・ドイツ・ポーランド・韓国・台湾）で作品を上演。2012年、ポーラ美術振興財団在外研修員（フランス）。2013年、日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演したのち、2014年、三重県津市美里町に拠点を移設。民間劇場 Théâtre de Belleville を開設。2015年より愛知県芸術劇場主催 AAF戯曲賞審査員。2021年より名古屋芸術大学 舞台芸術領域准教授。
第七劇場website　https://dainanagekijo.org

舞台芸術領域開設記念事業 vol.1

月灯りの移動劇場 Peeping Garden re:creation

演出、振付：浅井信好　出演：浅井信好、奥野衆英、杉浦ゆら　美術：浅井信好　音楽：川崎正貴　舞台監督：高瀬誠　照明：福井孝子　音響：伊藤隆文
ソーシャルディスタンス円形劇場デザイン：月灯りの移動劇場、STORE IN FACTORY　ソーシャルディスタンス円形劇場設計：市川和樹、大見果
制作：月灯りの移動劇場　協力：ダンスハウス黄金4422、リンナイ株式会社

30枚の木製扉に囲まれた円形舞台。
2つの「穴」を通じてパフォーマンスを「覗き見る」という視点から生まれる能動的なフレーミング効果。
ダンサーの動きを「観たいように見る」ために自ら体や視線を動かすことで、観客そのものも作品に内包されていく。
観客とダンサーは、「見る」と「見られる」という相互の視線の交わりによって、
より"リアル"に、細部まで研ぎ澄まされた踊りに"濃密"に接触することができる。
渇いた死の世界。白砂の原野が、3人の踊り手の躍動によって命を吹き返し、創造の庭へ。自然回帰への芽生え、循環する脈動のものがたり。

日時：2021年8月21日（日）　会場：名古屋芸術大学 東キャンパス